

連絡先：〒170-0013

東京都豊島区東池袋3-1-4メゾンサンシャイン1117

電話：03-6906-8779 FAX：03-6906-5698

大滝人事労務研究所便り

新型インフルエンザに対する企業の取組み

◆再び猛威をふるう新型インフル

新型インフルエンザの猛威はとどまることを知らず、世界保健機関（WHO）の発表によれば、9月6日時点における新型インフルエンザの影響とされる死亡者数は世界で3,200名を突破したそうです。日本でも8月中旬に新型インフルエンザの影響による初の死亡者が確認されました。

薬局の店頭からマスクがなくなってしまうなどの現象も再び起きつつあるようです。

◆企業における取組みは？

東京経営者協会では、8月下旬に「新型インフルエンザ対策の取組み状況に関するアンケート調査結果」（東京都内の会員企業が対象。1,210社のうち237社が回答）を発表しました。企業が事前にとった対策としては、「備蓄品の調達」（72.3%）、「社員の意識啓発」（64.5%）、「対応体制・意思決定プロセスの構築」（50.0%）、「対応マニュアル・行動計画の策定」（47.7%）が上位を占めました（複数回答）。

また、三井住友海上火災保険が行ったアンケート調査（上場企業が対象。3,807社のうち722社が回答）によれば、社内で新型インフルエンザ感染が拡大したときに対応するための「事業継続計画」を策定している上場企業は38.1%であり、新型インフルエンザ対策について「実行中」「対応を策定中」「策定予定」のいずれかと回答した企業はあわせて90.6%でした。

◆企業としては何をすべきか？

その他、企業としては、感染した社員や感染の疑いのある社員にどのタイミングで「自宅待機命令」を出すのか、社員の家族の感染が発覚した場合はどうするのか、



社員を自宅待機させた場合の「賃金」や「休業手当」はどうするのかについても考えておかなければなりません。

企業のリスクマネジメントとして、規程の策定なども含め、いざという時に備えて対策を考えておくべきでしょう。

アルバイト・パート社員の「働く理由」「辞める理由」

◆どんな理由が多いのか？

大手人材総合サービス企業が、アルバイト・パートとして就業中の労働者（約3,000名）を対象に、「働く理由」・「辞める理由」に関する意識調査を実施し、その結果が発表されました。

◆働く理由…「趣味」「貯金」の減少が目立つ

「働く理由」については、「生活費を補いたかった」（42.9%）が最も多く挙げられ、次いで「趣味に使うお金が欲しかった」（36.1%）、「時間を有効に使いたかった」（33.3%）と続いています。

昨年の結果と比較すると、主な理由が軒並みポイントを下げています。

「生活費を補いたかったので」が0.7ポイントとわずかながら増加しています。また、昨年に比べて減少した項目の中では、「趣味に使うお金が欲しかったので」(9.1ポイント減)、「貯金を増やしたかったので」(4.8ポイント減)の減少が目立っています。

遊びのためや生活の余裕を得るためではなく、生活費を稼ぐ必要に迫られてアルバイト・パートを始めた人が増加していると考えられますが、アルバイト・パートであっても、よりはっきりとした目的意識をもって仕事に向き合う層が増えている結果とも考えられます。

◆辞める理由…「店長や社員の人の雰囲気が悪いから」が増加

一方、「辞める理由」については、「店長や社員の人の雰囲気が悪いから」が24.2%で最も多く挙げられており、次いで「給与が低いから」(16.2%)、「楽でない・疲れる仕事だから」(15.0%)と続きました。

昨年の結果と比較すると、最も多かった理由は「店長や社員の人の雰囲気が悪いから」で変化はないものの、今年は5.8ポイントの大幅な増加となっています。

また、「給与が低いから」は昨年から4.1ポイント、「もっとよい条件の仕事が見つかったから」は3.9ポイント伸びています。

◆仕事の選択基準はよりシビアに

これらの結果から、パート・アルバイトの方が、生活費を補う傾向がより強くなっていると同時に、人間関係に加え、給与や条件面でよりシビアに仕事を選んでいる様子が見て取れます。

ネクストインターセクション 講座予定

第一回実践労働法シリーズ

日時 10月24日 13時30分～16時30分

場所 池袋 生活産業プラザ

テーマ 「スタッフの引き起こした事件・事故の責任
…公平な解決方法は？」 講師 大津英夫

テーマ 「解雇の自由と解雇権濫用法理」

講師 大滝岳光

■ 当事務所よりひとこと

9月の連休に、2泊3日で丹後地方(天橋立とか城崎温泉)に行ってきました。行きは東京・岐阜羽島間、帰りは京都・東京間を新幹線で後は地元のバス会社の観光ツアーでした。その際バスガイドさんが70歳近い高齢でしたが、文学から歴史・地理にいたるまで驚くべき博識、話し方も品があり、かつユーモアもあって、これぞプロだなと関心いたしました。高齢者の就職が困難であるといわれていますが、高齢であっても普通以上のスキルがあれば、十分な戦力になる好事例だと思ったことでした。(大滝)

皆さん「ソーシャルサポート(社会的支援)」をご存知でしょうか?メンタルヘルス・マネジメントでは、ソーシャルサポートを、「周囲の人たちからの支援」としています。

労働者が、困難な問題に直面しても「サポート能力の高い」上司や先輩がいて適切なアドバイスや、アドバイスが出来なくても話を聞いてもらう事によりその人のストレスは軽減されストレス耐性は強化されることが知られています。また「仕事の要求度が高く」「裁量性が低い」という高いストレス状態にある労働者は、心筋梗塞や狭心症などの冠動脈疾患に罹患しやすいが同じ高いストレス状態にある労働者でも、上司・同僚など周囲との交流や「ソーシャルサポート」がある場合はこれらの疾患の発生率が低いことが、スウェーデンのJohnsonらの調査で報告されています。

今、企業の中では、成果主義の導入によって減少してしまった、この「サポートの能力高い人」からの「同僚・部下に対する支援」を人事考課していこうという対応策が導入されてきています。企業は、中高年の人員整理を進めていますがこの「サポート能力の高い人」は高齢でもリストラされず、高い評価を受けて企業の中核となって仕事をしています。今回大滝が、高齢でも高いスキルがあればと書いておりますが、誰もが生き残るために何らかのスキルを磨く事が大切な時代を迎えているようです。(馬場)(o^^o)